

第3回普及員会議

日時：2014年2月28日 10:30～12:30

出席者：本間 根來 河村

通訳：ツブシン

司会：根來

1) アンケート

2) 自己紹介

アイマゲ	参加回数
トゥブ	1回目
ホブド	3回目
フブスグル	3回目
ドルノゴビ	3回目
ドントゴビ	3回目



写真1 普及員、参加者一同

3) プロジェクトマネージャー挨拶（本間）

- ・プロジェクトの状況について

2週間前に国立医科学大学の間で協定を締結

プロジェクト残り約2年で、外傷治療に対して柔道整復術を使うのが一般的になる事、モンゴル人指導者候補の育成を完成させるのは困難

モンゴルの医療制度の中に柔道整復術が組み込まれることが重要であるため、新たに協定書を締結

締結後は、政府、政治家、大学の先生などにアプローチをかけている。

- ・普及員へお願い

お互いに頑張ることが必要

普及員の先生方から普及の希望を聴取したい

今までの活動が現場で活かされているかというデータの収集が重要

そのデータの収集は普及員の先生の力が必要

- ・ODAによる臨床施設での、柔道整復術のコーナー設立

ここを拠点として普及活動を行いたい。

これはモンゴル側の望みの度合いにも影響する。

まだまだ普及はわずかであり、柔道整復術の講義を受けた先生の声を聴くことが重要である。

3) プレゼンテーション ホブド県普及員の取り組みについて

- ・ホブド県の医療従事者数は1070人
- ・去年の会議の後、システムづくりを開始
アイマグを4つのブロックに分けた
- ・馬の大会での記録
落馬は最初頭部から落下するので足に重いものを装着させることが重要ではないか
- ・6月から7月
外傷の原因について
落馬は競馬の練習中に怪我をすることが多い
交通事故はバイクで、
不整地を走っているときに多い
- 保健所からインフォメーション
：外傷の際に救急車を呼びために電話をするように
応急処置をした場所について
総勢 315 人 准医師による処置 160 人 ソム大医師による処置 84 人
応急処置の準備態勢の強化として
准医師のスキルアップ大会 搬送時の固定 准医師の応急処置用具（往診鞆）
- ・8月から9月
准医師会議
- ・10月から11月
応急処置の講義 准医師ソム医師などと相談して手に入るものによる
遊牧民の移動について
移動中の外傷の場合、ソム医師は応急処置の仕方を把握する必要性
移動には准医師と一緒にすることもある
ソムの一般人へのセミナー
- ・日本側からの質疑等
モデルケースとしてシェアをしたい
→時期によって怪我は違うのでそれぞれに考えてほしい。
ソム医師の会議は定期的実施しているのか。
→いくつかのソムでやっている。そこでの意見をまとめてアイマグで実施
データがとても重要であり、結果がどうであったかもほしい。
良くないものには原因を考える。



写真2 ホブド県普及員

5) プレゼン (根來)

6) ディスカッション

・2014年度講義会場について

ゴビアルタイの冬季の寒さや、ブロックの中央にない事があり、ホブドのほうが良いのではないか。大学はゴビアルタイに、ドルノゴビにあり仮決定していたが、保健省の協力も必要なこと、普及の意義があるなら CP と相談してホブドにお任せする。45人から50人の講義会場、体育館ならもっとたくさん入ることができる。

ドルノゴビ大学も大学で実施すると学校関係者が多くなる可能性が多いので、準医師が集まりやすいところで実施したい。

・効果的な普及について

けがをしても放置してしまう現状があるので、一般の人も含めて広く広報したい内容としては症例報告や応急処置の場面(動画なら3, 4分)

ツールとしては遊牧テレビ(地方では多く、アンテナがあれば視聴可能)

子供の短い映画

雑誌の投稿

フェイスブックの利用

トゥブ県では月に1つ番組を契約している

・学校勤務のバグ医師について

応急処置のみで健康教育は行わない

ソムのソーシャルワーカーなら健康教育することがある。

学校に対してのアプローチは、文科省、学校に直接よりも保健省へが効果的か。

学校の先生やソーシャルワーカーも市民公開講座へ出席してほしい。

・ソロンゴ通信について

普及員の紹介ページの作成

7) 公開講座の日程説明